経済同友

5

May
No.734

Contents

■特集
2011 年度 通常総会
長谷川代表幹事 新体制スタート 02
新代表幹事挨拶・通常総会・記者会見

■Close-up提言
医療・福祉ビジネス委員会　提言 09
対談　立石 文雄 委員長・高橋 泰 教授
人間としての尊厳を尊重した
医療・福祉ビジネスの発展

経済成長戦略委員会　意見書 13
委員長インタビュー　稲野 和利 委員長
健全な競争と
不確実性への挑戦を通じて
経済成長の実現を

政府関係法人改革委員会 提言 15
委員長インタビュー　梶川 融 委員長
コストが不透明なまま肥大化する
政策金融のあり方を見直す時期

■Doyukai Report
全国経済同友会地方行財政改革推進会議 18
基調講演　片山善博 総務大臣

■Seminar
第1169 回会員セミナー 19
「大地震発生にどう備えるか」
森田 正光 氏(ウェザーマップ 取締役社長)

第1170 回会員セミナー 20
「震災を踏まえた日本経済の見通し」
白川 浩道 氏(クレディ・スイス証券 経済調査部長兼チーフ・エコノミスト)

■Column
巻頭言　岩田彰一郎 01
「ライフスタイルの変換を」

リレートーク　昆 政彦 17
「人間の進化について思うこと」

私の思い出写真館　内永ゆか子 22
「世界が広がる手ごたえ、それを伝えたい」

新入会員紹介 21

今月の表紙：世界の文様シリーズ

【インド・サリー(ドレス)柄の一部】

ペイズリー柄の起源はペルシャとされ、その後インド、イギリスへと渡っていきました。これは庶民的な親しみやすい模様になっています。

巻頭言

副代表幹事
社会的責任経営委員会 委員長
岩田 彰一郎
アスクル
取締役社長兼 CEO

「 ライフスタイルの変換を 」

2010年度観光・文化委員会の委員長を拝命し、多くの委員の方々との活発な意見交換や、熱い思いのある専門家からご意見を伺いながら、最終提言をまとめていました。それは今後の日本の成長を牽引できる幅広い「新しい観光・文化産業」として、人の移動を誘発し、人を呼び込み活力を生む産業であるTCC & C (Tourism, Culture, Communication & Community) の育成に向け、日本の文化資産の見直しによる日本ブランドの構築を骨子とするものです。

しかしながら、3・11の大震災によって日本の観光産業の状況は一変してしまいました。長期的な方向感は明確なものの、足下の状況は日本ブランドを含め壊滅的な状況にあります。日本の観光産業について考えてきたわれわれは、そうした状況に直面し、「何か今、役に立てることはないか」との思いでいっぱいでした。

われわれの提言についても震災後の状況を踏まえたものでなければならないとの思いから、副委員長とともに2011年度観光立国委員会の星野佳路委員長(星野リゾート 取締役社長)に引き継ぎました。

今、観光業に携わる皆さんからいただく声は、国内、海外を含め観光に動いてほしい、マインド・セットを切り替えて旅を楽しむ心を取り戻してほしい、というものです。実際、国内の旅行消費額のうち9割近くは、日本人による国内旅行です。ですから、国内旅行を回復させることが、地域振興、ひいては日本全体の活性化へもつながるものになると信じています。

そのためには、過度な自粛ムードや原発事故による風評被害の払拭に向けた明確なメッセージを、国民に対して発信することが求められます。しかし、それはなにも政府や観光庁に限ったことではなく、われわれ一人ひとりがこの状況下にあえて旅行をすることでも発信できるものです。

それが元気で活力にあふれた日本となるためのスタートであり、その結果、海外からも人を惹きつける、魅力的な国となるのです。

今回の大震災では、直接被災した企業もそうでない企業も、日本中が大きな衝撃を受けました。経営者も放射能、節電、テロと気持ちの上でも心が晴れない日々が続いています。

今年の夏は、節電が大きなテーマです。長期休暇、サマータイムの導入によって、働き方、ライフスタイルの転換が求められています。

このような時だからこそ、経済同友会の皆さん、率先して2週間の夏休みをとりましょう！そして、国内でも海外でも、好きな場所を見つけて好きな本を持って旅に出ましょう。少年・少女のような冒険心を持って。

その一歩を皆が踏み出すことによって、心を解放し、魅力的な日本を創っていきましょう。豊かな心、豊かなライフスタイル(働き方)、豊かな文化の創造が、新たな日本の成長と国民の幸せへとつながるきっかけとなると思います。